

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年8月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2022年8月9日～8月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 124社
- 回収率 62.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の8月の状況を見ると業況DIは、前月より4.1ポイント悪化の▲26.9となった。

2017年9月以来60ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲31.7、当月と比べ4.8ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

| | 2022年 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 先行き見通し 2022年9月～ 2022年11月 |
|------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------------------|
| 業況 | ▲28.1 | ▲24.4 | ▲24.8 | ▲24.0 | ▲22.8 | ▲26.9 | ▲31.7 |
| 売上 | ▲15.9 | ▲17.4 | ▲6.2 | 0.9 | ▲0.8 | ▲2.4 | ▲13.0 |
| 採算 | ▲29.8 | ▲29.1 | ▲24.8 | ▲21.5 | ▲22.8 | ▲30.1 | ▲34.2 |
| 仕入単価 | ▲74.2 | ▲78.7 | ▲76.7 | ▲79.3 | ▲74.8 | ▲72.4 | ▲66.7 |
| 販売単価 | 18.2 | 22.0 | 26.3 | 30.6 | 35.7 | 34.2 | 24.4 |
| 従業員 | 28.1 | 25.2 | 34.1 | 30.6 | 28.4 | 34.9 | 37.4 |
| 資金繰り | ▲18.2 | ▲15.7 | ▲11.6 | ▲15.7 | ▲15.5 | ▲14.7 | ▲10.5 |

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

| | 2022年 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 先行き見通し 2022年9月～ 2022年11月 |
|------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------------------|
| 建設 | ▲34.5 | ▲27.6 | ▲46.7 | ▲38.0 | ▲48.1 | ▲46.7 | ▲46.7 |
| 製造 | ▲6.9 | ▲22.6 | ▲20.0 | ▲25.0 | ▲13.3 | ▲30.8 | ▲46.2 |
| 卸売 | ▲30.0 | ▲28.5 | ▲22.2 | ▲7.4 | ▲21.5 | ▲17.8 | ▲14.3 |
| 小売 | ▲38.9 | ▲22.2 | ▲20.0 | ▲36.9 | ▲31.6 | ▲21.0 | ▲31.5 |
| サービス | ▲34.6 | ▲19.1 | ▲9.1 | ▲11.1 | 5.3 | ▲10.0 | ▲15.0 |

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

| | |
|-------|---|
| 建設業 | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての建設資材の価格が上昇しているだけでなく、労務費も上昇している。顧客に価格転嫁しているが、建設会社も痛みを分かち合う形を取らざるを得ず利益が圧縮されてきた。人手不足もあり、来年に向けてこの傾向は強まると思われる。（総合工事） ・当社の工事受注量は、戸建てを中心に継続し昨年と比べ減少している。また、企業物価指数を見る限り、企業の川上から川中、そして川下に向けての企業物価はコストアップ分を反映しきれておらず、その反動で人件費抑制などのコストダウンに向かう傾向にあり、当社もコストアップ分を価格に転嫁できなければ賞与等の支給に影響が出ると思われる。やはり政府の経済対策が急務と考える。その中ではあるが、人材について将来を見据えての対応が必要であると判断し、足元の業績悪化の不安は残るが即戦力（資格保有者）と若い人材の確保を積極的に進めていく。（設備その他） ・木材はまだ高価格ではあるが少しずつ下がってくる兆候があり、建材什器品はまだ上がる傾向にある。受注（リノベーション・リフォームが主）は増えつつあるので、利益を保てる様進めていきたい。（建築業） |
| 製造業 | <ul style="list-style-type: none"> ・加工業務が本格的になり、従業員、パートの尽力で作業が進捗している。今後、最低賃金の引上げ・コロナ融資の返済もあるので取引先への営業で売上の増加を進めていきたい。（食料品） ・4月に実施した値上げの影響で受注が落ち込んできている。原材料は引き続き高止まり。最低時給が底上げされるに伴い人件費が上昇。新たな設備投資を考えているが、コストがコロナ前の30%～50%アップになっている。（家具・木材） ・企業努力で何とか持ちこたえようと思っていた矢先にコロナに罹患するメンバーが続出し、売り上げが止まってしまった。サブスク等で成り立っていないので、動けないメンバーが出た事で売り上げが立たなくなった。（金属窯業他） |
| 卸売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・価格高騰の影響がじわりじわりと消費に影響を与えている。値上がり前の買い控え需要はなくなかったが、海外からの商品が遅れていたり納期未定であったりと売上につながらないケースが多かった。（繊維） ・西日本で北海道産青果の人气が年々高まっており、夏のギフトとしての需要が多い盆商戦となった。（飲食料品） ・商品市況は落ち着きを見せているものの、仕入価格は依然高止まりの状況下にある。仕入れ先からの値上通知もあり当社としても取引先にどう反映させるかが当面の経営課題と思考する。業況的には今後若干売上が減少するものの、おおむね良好に推移すると見込んでいる。（その他） |
| 小売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・8月はサマーセールも一段落し秋物商品が店頭揃ったが天候が真夏並みの30℃にせまり、来店客が少なく日々夏物で過ごせることもあり売上が厳しい。（衣服身回品） ・引き続き、売上増加基調。しかし、仕入価格上昇の影響が顕著に出てきており、商品値上げが追い付いていない。今後も資材、原材料の値上げが予想され利益確保に向け課題が多い。また、コロナ回復しているが人材確保が思うようにいっていない。人材派遣等で急場しのぎ対応。今秋からの最低賃金アップ。当社はパート従業員比率高く、人件費上昇が避けられない状況。業況が徐々に回復基調にあるが新たな課題となることが予想される。また、最近のコロナ感染症増加により、当社従業員も親族の感染など発生しており影響を受けている。（食料品） ・今年は行動制限が発令されていない為来店台数は昨年より増加している。観光客へのレンタカーの貸し出しが順調。電気料や印刷物などの単価が値上がりし経費支出額が増えてきており、10月には最低賃金の上昇がある為販売価格の見直しが必要となってきている。（その他） |
| サービス業 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの影響で昨年より観光客が2割程減少している。秋に期待している。（理美容・クリーニング） ・業種的に資材単価高騰による直接的影響は感じられない。若手技術者育成と即戦力となる技術者の確保が当面の課題。（その他） ・売上はコロナ前に戻ってきたが、その分人手不足になってきている。（飲食） ・移動に関する制限がなくなり、人の移動量が戻つつある状況ではあるが、感染リスクは高いまま。従業員の感染、濃厚接触者等で人員不足が一層厳しくなっている。燃料、資材の高騰止まらず、借入れ返済負担増も考慮すると、資金繰り不安は続く見込み。最低賃金も上がっており、賃金レベルの見直しも急務だが原資が作れていない状況では厳しさを感じる。（運送） ・都市間・市内路線共に利用者の回復傾向が続いているが、コロナの影響が無かった年度までの回復にはほど遠い。また、爆発的な感染者増に伴い、回復の勢いに鈍化が見られ先行きに不安がある。（運送） |

旭川市の産業別概況

| 産業 | 概況 |
|-------|--|
| 建設業 | <p>売上 DI9.3 ポイント改善、採算 DI5.1 ポイント悪化、仕入単価 DI8.2 ポイント改善、販売単価 DI9.3 ポイント改善、資金 DI7.8 ポイント改善、従業員 DI19.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、総合工事 5 ポイント、設備その他 7 ポイント悪化、建築業 26 ポイント改善となった。ウクライナ情勢・円安等による資機材価格の高騰により、利益を圧迫している（製品単価の設計価格が実勢価格に追い付いていない）との声も寄せられている。</p> |
| 製造業 | <p>売上 DI5.6 ポイント悪化、採算 DI11.4 ポイント悪化、仕入単価 DI8.0 ポイント悪化、販売単価 DI6.7 ポイント悪化、資金 DI13.1 ポイント悪化、従業員 DI5.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 17.5 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 9 ポイント、印刷出版 40 ポイント、家具木材 18 ポイント、金属窯業他 3 ポイント悪化となった。地元の仕事が減少。仕入れ単価の上昇が懸念されるとの声も寄せられている。</p> |
| 卸売業 | <p>売上 DI7.2 ポイント改善、採算 DI3.6 ポイント悪化、仕入単価 DI 横ばい、販売単価 DI10.7 ポイント改善、資金 DI7.2 ポイント改善、従業員 DI3.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 3.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、機械鋼材 2 ポイント悪化、繊維・衣服等横ばい、食料品 14 ポイント、その他 1 ポイント改善となった。コロナ感染者が増えてきているため多少ではあるが業務に影響が出てきているとの声も寄せられている。</p> |
| 小売業 | <p>売上 DI5.2 ポイント悪化、採算 DI5.2 ポイント悪化、仕入単価 DI10.6 ポイント改善、販売単価 DI10.5 ポイント悪化、資金 DI 横ばい、従業員 DI 横ばいとなった。総じて業況 DI は 10.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、自動車横ばい、食料品 20 ポイント、その他 14 ポイント改善となった。全体的に仕入れ商品はすべて値上がりして一段落ち着いた。観光客は戻りつつあるが、まだコロナ以前には戻っていない。日用品が値上がりしているため、当社が扱っている木製品は買い控えていると感じているとの声も寄せられている。</p> |
| サービス業 | <p>売上 DI16.3 ポイント悪化、採算 DI10.2 ポイント悪化、仕入単価 DI3.9 ポイント改善、販売単価 DI11.3 ポイント悪化、資金 DI1.1 ポイント改善、従業員 DI7.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 15.3 ポイント悪化となった。業種別では、その他 25 ポイント改善、ホテル・旅館、整備業横ばい、理美容・クリーニング 200 ポイント、飲食 25 ポイント、運送 50 ポイント悪化となった。9 月以降は新型コロナウイルスによる影響を心配しているとの声も寄せられている。</p> |